

平成29年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（深島・屋形島）

1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：深島・屋形島

協定締結集落名：深島・屋形島漁業集落

交付金額：1,649千円

(1) 基本交付金：1,649千円

(2) 新規就業者特別対策交付金：0千円

協定参加世帯数：12世帯、19人（うち漁業世帯12世帯、19人）

都道府県の都市部の勤労者世帯の有業者一人当りの平均勤め先収入（直近3年平均）3,497,223円

集落の平均漁業者所得 646,111円（平成28年）

2. 協定締結の経緯

大分県の南東端に位置する佐伯市深島・屋形島周辺の海域は、起伏の多い天然礁や、大小無数の岩礁が形成されており、海流は瀬戸内海の低温水と黒潮から流入する高温水とが混合流となることにより栄養豊富な海域となっている。地元漁業者は、このような良好な自然環境に恵まれた漁場を利用して、巻き網漁業、一本釣り漁業、刺し網、緋扇貝・イワガキ養殖などを営んでいる。しかしながら漁業が基幹産業である本地区においても、漁業者の減少や高齢化、水産資源の減少などにより漁獲量は減少傾向にある。このまま放置すれば本地区の漁業は一層衰退し、水産業・漁村における多面的機能も低下する可能性がある。

このため、本地区における漁業を維持・再生させていくことが重要であり、漁場の再生に関する集落での話し合いを通じて、漁場の生産力の向上に関する取り組みや、漁場の再生に向けた新たな取り組みを実践的に取り組める環境を整えるため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動を実施することとした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

○人工産卵礁の設置や放流効果等の調査を行うことにより、資源の増殖を図った。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
産卵場・育成場の整備	人工産卵礁設置 （雑木）	7月13日、21日	15人	194,970
	人工産卵礁設置 （人工海藻）	9月12日	4人	30,000
	人工産卵礁設置 （貝殻くん）	3月14日、3月25日	7人	707,188

②漁業の再生に関する実践的な取組の実施

○新規漁業の着業に向け、天然種苗の採苗試験において状況調査を実施した。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
新規漁業の着業	ヒメアサギ天然採苗試験状況調査	1月23日、1月25日	12人	50,000

○高付加価値化への取組として、低・未利用魚の加工品開発を行った。

活動内容		実施日	参加人数	経費（円）
高付加価値化	低利用魚の加工品開発	2月14日	6人	121,669

○視察研修（山口県萩市）を実施した。

4. 取組の成果

(1)産卵場・育成場の整備として、雑木で作成した人工産卵礁の設置を7月13日に深島、7月21日に屋形島で実施した。9月12日には、西日本ニチモウに提供してもらった人工海藻付産卵礁を深島に設置した。また、貝殻を利用した既製品の魚礁（商品名：貝藻くん）を産卵礁として、3月14日に屋形島、3月25日に深島に設置した。今後は、水揚げ量も含め、自然物、人工物での設置効果の違いについてなど検証を行う予定である。



人工産卵礁設置：深島 (H29. 7. 13)



人工産卵礁設置：屋形島 (H29. 7. 21)



人工産卵礁設置：深島 (H29. 9. 12)



人工産卵礁設置：屋形島 (H30. 3. 14)

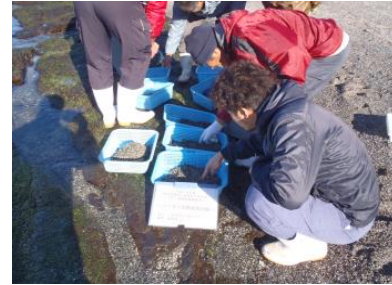


人工産卵礁設置：深島 (H30. 3. 25)

(2) 新規漁業の着業として平成29年度は、前年度から実施しているヒメアサリの天然採苗試験において、採苗状況を把握する調査を行った。1月23日に深島、1月25日に屋形島で、設置してある採苗器の一部を調べたところ、深島では稚貝を確認できなかったが、屋形島では採苗器1袋あたり、数個から数十個確認できた。今後も採苗状況を調査しながら、試験を継続する予定である。



ヒメアサリ天然採苗試験調査:深島(H30.1.23)



ヒメアサリ天然採苗試験調査:屋形島(H30.1.25)

(3) 高付加価値化の取組として、低利用魚の加工品開発を実施した。2月14日に、ブダイ等の低利用魚の加工について、プロの料理人を招いて調理指導・試作・試食会を行った。今後は、製造・販売についても検討を進めていく予定である。



低利用魚の加工品開発 (H30.2.14)

(4) 先進事例視察として、低・未利用魚の加工に関して、山口県萩市での事例を視察した。



先進事例視察 (H30.2.1)